

第881号

令和3年9月6日

佐渡市立金井小学校

佐渡ことば・こころの教室

教室だより

〒952-1209

佐渡市千種丙178番地1

TEL:0259(63)4156(直)

4115(代)

FAX:0259(63)4117

E-mail:skotoba@sado.ed.jp

HP:<http://kanai-es.sado.ed.jp>

(教室だよりのバックナンバーも掲載中)

佐渡地区特別支援教育研究大会から



県立佐渡特別支援学校

校長 水谷 武

4年ごとに開催される標記の研究大会が、先日、オンラインで開催され、島内外から170人を超える教員・関係者が参加し画面上でつながりました。

ご講演いただいた広島大学の竹林地(ちくりんじ) 毅先生からは、「子どもの顔を思い浮かべる」と、子どもの「体験を経験にする」の二つのキーワードを基に、特別支援学校・学級での授業づくりの大切さを教えていただきました。二つの言葉の意味することは、私たち授業者が常に子どもの思いやニーズに十分思いを馳せるとともに、子ども自ら気づき意思決定できるような単元や授業の展開を意識することと捉えました。

そして、子どもの思いに迫るためには、教師間や保護者との話し合いや豊かな対話から得られる情報が欠かせないこと、さらに、望ましい授業に迫るためには、子どもたちが立ち止まって考えたり戸惑ったりする場を意図的に用意することも有効であると教えていただきました。各校での、夏休み後の授業づくりや存在感のある学級経営のための大きなヒントを与えていただきました

ことばの練習の奥に

夏期言語検査を経て入級するお子さんがこの時期何人かいます。以前担当したあるお子さんは、発音の指導を試みましたが、黙ったきりなかなか練習してくれません。慣れない先生と教室のせいかと思いい、まずは仲良くなり、安心できるようになってから指導に入ろうと考えました。私が何度か保育園に出向き、少し慣れた頃、次は金井小でと約束。これで一安心と思いきや、やはりまた金井小の教室ではそわそわしたり黙り込んだりして、指導が軌道に乗るまでにかなり時間を要しました。また別のお子さんは、練習後の遊びが気になって落ち着かない気持ちをぐっところえ、頑張りました。またあるお子さんは物静かで、あまり自由な会話はしませんでした。地道な練習にも一生懸命に取り組み、終了を迎えました。数年後、そのお子さんが、ことばの教室に通っていたと自ら語ったこと、大切な場面で自分の意見を言えるようになったことを担任の先生から聞きました。

どの子もことばの教室で、少なからず自分の苦手なことと向き合い乗り越えていきます。その経験が、心のどこかで自信になっているとしたら、これほど嬉しいことはありません。(金子)



親の会コーナー



保護者の声

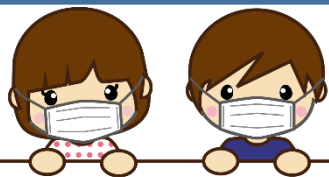
小学生保護者

令和2年12月の新聞で、佐渡ことば・こころの教室が「博報賞」や「文部科学大臣賞」に輝くという記事を拝読しました。離島での50年にわたるきめ細かい指導実績が評価されたとのことでした。

入級のきっかけは、宿題の音読で単語の読み方を理解していないように感じたので、担任の先生に相談したところ、こちらの教室を紹介していただきました。

月に3～4回通っていますが、授業がある日をとっても楽しみにしていて、帰宅すると授業内容を嬉しそうに話してくれます。また、先生からも連絡帳に詳しく記入していただくので、どんなことを学習してきたのか分かりやすいです。時間を計りながらゲーム感覚で学ぶことが、やる気アップに繋がっているようです。

この教室に入級し、支援していただけることに感謝しております。今後とも、ご指導のほどよろしく願いいたします。



感染予防対策

<職員が行うこと>

- ① **不織布のマスクを着用します。**
- ② 換気を行います。
- ③ 指導の前後に机、椅子の除菌をします。
- ④ 必要に応じて透明なついたてを使用します。

お知らせコーナー

<来校者へのお願い>

- ① **できるだけ不織布のマスクの着用をお願いします。**
- ② 来校時、アルコール消毒をお願いします。
- ③ 検温をお願いします。37.5度以上の時は指導できません。
- ④ 自分の筆記用具を持参してください。
- ⑤ 指導前後の手洗いもお願いします。

ことば・こころ応援団



本年度第2回目は、先輩保護者の田中香織さんです。相談支援のお仕事に就かれています。『こもれび』は、障がいのある方や障がいが疑われる方、不登校の方などの相談に気軽に乗ってくださるそうです。島内の相談できる所に先輩ママがいてくれることは、大変心強いです。

「息子の通級と私の仕事」



社会福祉法人佐渡福祉会 相談支援事業所 こもれび
田中 香織

障がいのある方の支援を仕事として20数年…その中で母親として、ことば・こころの教室でお世話になりました。家族・家から離れるのが不安でたまらず、年長になっても毎日泣きながら保育園に通った息子。でも通級の時には泣きません。親と一緒にのお出かけ感覚もあったのかもしれませんが、優しく丁寧に関わってくださった先生方のおかげと思っています。おかげさまで、親の心配をよそに、小学校へは泣くこともなく元気に通学できました。

そんな息子も今は社会人として働き、彼の個性を理解し認めてくれる友人や職場の仲間にも囲まれ、日々いろいろな壁にぶつかりながらも成長した姿を見せてくれています。

私は今、障がいのある方やそのご家族、関わってくださる方の相談をお受けし、一緒に考え、お手伝いしてくれるサービスや支援者にならぬ「相談支援」という仕事をしています。私も息子のことで、先生方にずいぶんお話を聞いていただきました。聞いてもらうだけでも、少し気持ちが楽になりほっとし、アドバイスをいただけることがとても心強かったことを覚えています。相談に来られた方に、そんな気持ちになってもらえたらなと思いながらお話を伺っています。